

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 59-036860

(43)Date of publication of application : 29.02.1984

(51)Int. Cl.

G06F 15/00

(21)Application number : 57-146781

(71)Applicant : NITSUKO LTD

(22)Date of filing : 26.08.1982

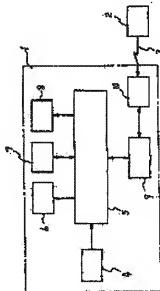
(72)Inventor : IWAMA TERUHIKO

(54) METHOD FOR DISCRIMINATING RELUCTANT DATA INPUT

(57)Abstract:

PURPOSE: To prevent the input of reluctant transaction due to exaction and to prevent the unjust use of a card by dividing the secret number of the card into main and sub numbers, and when the subnumber is inconsistent in spite of the coincidence of the main number, making a computer execute false data processing.

CONSTITUTION: When a sub-secret number registered as a number consisting of plural digits is inputted from an input part 4 and then a main secret number consisting of plural digits is inputted, only the sub-number is displayed 6 through a microprocessor 5 and the main number is displayed so as to be prevented from others' steal glance. Once stored 7, both secret numbers and data related to transaction are sent to a host computer HC2 in accordance with the indication of the microprocessor 5 and then only the sub-number is returned from the HC2 and displayed on a position following said display. When both the main and sub numbers coincide with each other, the input transaction is processed. At the inconsistency of the sub-number the HC2 executes false data processing. When input is exacted from other persons, danger and unjust use of the card can be prevented by inputting a false sub-number.



⑭ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—36860

Int. Cl.³
G 06 F 15/00

識別記号
102

庁内整理番号
6549-5B

③公開 昭和59年(1984)2月29日

発明の数	1
審査請求	未請求

(全 3 冊)

④不本意なデータ入力での識別方式

川崎市高津区北豊方260番地目

本通信工業株式会社内

出 願 人 日本通信工業株式会社

川崎市高津区北畠方260番地

特 照 0757-146781

出 順 昭57(1982)8月26日

◎ 覺 明 者 岩間輝騰

期 刊 名 称

1. 執明の名称

不変量形式- ρ 入力型規則方式

2 特殊規定の範囲

計算機システムとデータベース系構築の両面で
 新技術を融合する四人連判方式において関合番号
 は「関係座番号」となり、計算機システムは関合
 表により該関合番号が一致した場合のみ座票の
 データ転送を行い、関係座番号が不一致の場合は
 座票のデータ転送を行わないことを判別すると
 なる。このデータベースの連判方式。

3. 発明の詳細を説明

本提議は犯罪自体でデータの入力を脅迫強要された場合に入力データを脱法的に破壊することにより、被害を最小限に止めるための不意をデータ入力の逐次方式に備える。従来の個人識別方式は使用場所が公共民有なる場所でも不許可多数の監視網を想定してゐたため、犯罪防止の方法としては役別望が入

力する所無き者~~を~~を以てすればよかつた。

しかしながら特許この領の方式を使用した製品が商品化され個人所有となり、公共性のない私営域で使用が実現した場合、他人の専断管掌により大銀行から小銀行への決済等の操作がなされる犯罪に列しては本人が意欲にされるため、余儀なく専断番号を入力するので使用者の専断番号のランダムだけでは犯罪防止の効果が乏しい欠点がある。

本発明はこの欠点を除くための検査番号として個人識別の属性証番号の他に更に本人の意図に基づく入力データで、正常を入力データが暗号化装置による入力データかを識別するための副属性証番号を設けて、後副属性証番号の正否に依り付属検出システムは入力データを取込むようにし、犯人に捉えられることなく、属性証番号を伝送し見かけ上のデータ処理をworksな方式を確保する。

次に図に示すように経緯に説明する。

第1図は本発明の一実施例を示すブロックダイアグラムである。1はデータ入力端末装置、2は計算センター、3は記憶装置を有する計算機システム、4は通信回線、5はプ

神農略59- 36860(2)

データ入力部、②はデータ入力用端末機として制御処理を行うためのマイコンプロセッサ、③は動作手順やデータ情報を表示するための表示部、④は記憶部、⑤は各種機能を実行するためのコントローラ、⑥は読取部と計算機システム間でデータの送受信を行うためのデータ送受信部、⑦は計算機システムとデータ入力用端末機を通信回線を介して接続するインターフェースである。

第1期に於いてデーク入力値から複数の指からなる複線式大綱形派音(例へば354とする)をデーク入力は強弱力「で」入力し同時に複数の指からなる単純派音(例へば456)とする「で」を入力するとマイクログラフで5を介して表示能は尺則形派音の如きが第2図(4)の如くよう354と表示され、主音派音が第3音に置換されたとする(例へば354と表示される。一方デーク入力強弱派音の所有音がデーク入力を他から音流知要されれば、派音デーク短縮する目的で前記同音流派音と作れる任意の派、派354とする。と、表示能は第2図(4)の如くよう354と表示される。

が表示され、開始証番号の入力が自分の意思通りに入力
され九か否かを確認することができる。

次に表9に示れた照会番号はマイクログラフセッサ
により記憶部7に記憶され前記データ入力部6より入
力した各番データと共に記憶部7に記憶される。

次にデータ入力部4からホストデータ入力部7を経て計算機システム2のデータ通信部5を介してデータ入力部6で呼び出され、計算機システム2とのデータリンクが確立すると計算機システム2よりデータ送信指示命令により計算機システム2からデータ送信指示命令によりデータ通信部5を介してデータ入力部6で呼び出され、前記記憶部7に記憶されたデータのうち、データ入力部6に指定番号、定価照番号、照付番号等が計算機システム2へ送信される。計算機システム2は、前記定価照番号、照付番号等及び前記定価照番号等をメモリに一時記憶し、前記定価照番号等を前記データ入力部7から宛先に送信し、照付番号等の送信部6に記憶された照付番号を入力し宛先に前記照付部6から送信し、定価部6から入力したデータと照付部6から送信した

として米六番号を提示し、紙面の明暗証番号を入力した
 以降は所有権第2条(図)に示すように表示し、附随記録
 簿の両面を記載欄明暗証番号の欄に入力する。附随記録
 簿の所有権第2条(図)に示すようにR点とC点の番
 号が等しい番号であればデータ入力用4枚「面紙」の
 入力を行い、記録簿をマイクプロセッサ9、デー
 タ送受信装置9及び面紙入力ユニット10を介して
 計算機システムへ送受する。計算機システム側は前
 記米六附随番号を元に記録簿番号を生成し自機に
 結びつける処理を行う。更に明暗証番号が異なる番
 号と一致して10のミスマッチエラー処理を行い、面紙
 ユニット附随記録簿10のミスマッチエラー処理を行い、
 面紙入力ユニット10、データ送受信9、マイク
 プロセッサ9を介して附随記録簿番号をプリントフ
 ーム11、一方照合番号の0と明暗証番号が一致しない
 場合は西暦、556の明暗証番号は数値処理を行い隣接を前記
 図解の方式でプリントアウトする。この場合正常処理
 定着の記録と誤用記録簿番号の紛失を前記記録簿の使
 用者の紛失を通知することによって防止し、記録簿の

途による競合状態を行なう場合でも本人にそれと気付かれないようにする。例、主権証番号が一覧しない場合は在来通り前記計算システムでデータ処理を受け付ける。この時、本人が該競合状態の所有権は主権証番号の入力ミスに気付く。しかし前記証番号が一覧しない場合は上述のように、前記計算システムは疑似データを出力するため、所有者は入力した該前記証番号を確認する必要もある。

また、附帯記番号の入力方法として、紙張カードを使用することにより通常使用の命令の入力：スを除くすとも記表示部への表示も不要となることは容易に考えられる。

以上外照に規定したように論比データ入力用端末装置の所有者は、他人から脅迫強要され照会番号を入力する時、親類者に見分けられず、本人の意欲に添ったデータ結果を計算機システムに実行させることができる。一方計算機システム側においては、データ入力用端末装置からの照会データ照会番号のデータ内容が異なる。これらのデータに基づき照会番号の照会が行われる。

特開昭59- 36860(3)

れ、被害を最少限に止めるとともに被害者救済所有
者の葬の能済をかねることができるとの今般短々自
述文するこの潮のブーネ遊舟野に於ける船乗に對し
て大きな効果は期待できるものである。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明の一実施例を示すブロックダイアグラムである。

第2図(a)例は照合番号の表示の一覧例例、(b)例は照
 合番号の入力用と計算機システムからの返答時とを
 比較表示した一覧例例。

1. データ入力端末機
2. 計算システム
3. 演習部
4. データ入力部
5. マイクロプロセッサ
6. 読取部
7. 記憶部
8. プリンター
9. データ送受信部
10. 画像インターフェース